

2024年4月28日 復活節第五主日礼拝説教  
「いのち受けてますか」(ヨハネ15章1～8節)

○ぶどうの木から流れ出る命

「わたしはまことのぶどうの木、わたしの父は農夫である。」(1節)

神の子イエスは、ご自身が捕らえられる時を悟り、これから暫くの間、残される弟子たちに向けて『ぶどうの木』の譬えを話し、十字架の死、よみがえりの後もずっと交わりは続くので、「わたしの愛にとどまりなさい」(9節)と励まされた。

「\*わたしにつながっているながら、実を結ばない枝はみな、父が取り除かれる。」(2節)

\*【直訳】①わたしのうちにいながら ②わたしのもとに導かれていながら

☞わたしたちが、キリストの御許に集められているのは、みことば、祈りなどをおして、この方の命と力を受けながら、神の憐れみのうちに生かされるため。

今日のみことば：ヨハネ15章4節

「\*わたしにつながっていないなさい。わたしもあなたがたにつながっている。」

【直訳】あなたがたは、わたしのもとから離れず、ここに、そのまま居続けよ。

「あなたがたも、わたしにつながっていないければ、実を結ぶことができない。」(4節)

※罪の赦しを受け、神の息吹が注がれるため、絶えずキリストのうちに留まろう。

\*聖書翻訳本文は日本聖書協会『聖書 新共同訳』からの引用です。